

## くらし・福祉・平和・原発ゼロの声で、

新たな  
決意で

# 県民の願い実現へがんばります

4月の県議選をうけ、新たな任期がスタートしました。日本共産党県議団は、安藤はるみ(5期目)、よしまた洋(2期目)、田端みゆき(1期目)の3人ががんばります。会派内の新たな役職と今年度の県議会各委員会の所属をご紹介します。



党県議団代表

## 安藤はるみ



建設常任委員会

新幹線・鉄道問題対策特別委員会

県議5期目の当選を果たすことができました。

日本共産党会派は、松田勝さんに代わって田端みゆきさんが当選を果たし、よしまた洋さんとの3人の県議団でがんばることになりました。知事も新しくなり、是々非々の立場で県民のみなさんの付託にこたえていきたいと思ひます。

また今回の選挙で、県議会全体の女性議員が3人から7人になり、雰囲気もちよつと変わった気がします。

より県民の皆様のご要望にこたえられるようがんばっていく決意です。いつでもお気軽にお声掛け下さいますようよろしくお願ひいたします。

党県議団副代表

## 田端みゆき



環境厚生常任委員会

新幹線・鉄道問題対策特別委員会

広報図書委員会

党県議団幹事長

## よしまた洋



商工労働観光エネルギー常任委員会

議会運営委員会（オブザーバー）

原子力・エネルギー対策特別委員会

議会改革検討委員会

マイナンバーカード

トラブル続出

## 命と健康を守るため 健康保険証は存続を

別人の情報が紐づけられるなどマイナンバーカードの混乱が続いています。政府は来年秋に健康保険証を廃止するとしていますが、診療現場の混乱や命と健康への影響が危惧されます。日本共産党は第314回定例会（7月議会）で、他の会派・議員とともに、健康保険証の存続を求める意見書を提出しましたが、賛成少数で否決されました【4面に続く】。

## 健康保険証の存続を求める

意見書が否決

7月議会

賛成

日本共産党、新政未来、無所属（鹿内議員）

反対

自民党、オール青森、公明党、参政党、無所属（吉田議員）

第314回定例会（7月6日～24日）

主な日程と日本共産党県議の質問 6日 開会。先議の質疑（よしまた県議） 12日～14日 一般質問（安藤県議） 19日 質疑（よしまた県議）、

宮下宗一郎知事が就任してはじめての定例会が開催されました。知事から議案14件、報告20件が提案され、採決された議案すべてが可決・同意・認定されました。こ

の議会には、事業会計の決算の認定も提案されました。日本共産党は採決に付された議案のうち、9件に賛成し5件に反対しました。



憲法、原発・核燃、教員不足…  
宮下知事の政治姿勢の  
基本点を問う

一般質問にたった安藤県議は、宮下知事の政治姿勢を正面から問う質問を行いました。主な内容を紹介し（質問通告は下記）。



▲一般質問の動画がご覧いただけます。

憲法



“9条を守り、憲法の全条項が花開いてこそ  
「新時代」といえるはず”（安藤県議）

宮下知事「私自身も知事として当然に憲法を尊重し擁護する立場」

知事の憲法観について問うた安藤県議に対し、宮下知事は、「憲法を尊重・擁護する立場」と表明しました。続けて安藤県議は、知事がむつ市長時代、「前文及び9条はただちに改正すべき」と述べたことを踏まえ、改憲についての見解を質問。知事は、公務員の憲法尊重擁護の義務を定めた99条と憲法改

正が規定されている96条を紹介したうえで、「国民が時代にふさわしい憲法改正を望むのであれば改正されていくという認識」と答えました。

安藤県議は、「国内外の戦争犠牲者の下にある不戦の誓いを柱とした憲法は変えてはならない」と訴えました。

弾薬庫  
新設

“明確に反対を”

（安藤県議）

むつ市の自衛隊大湊地区に新たな火薬庫を整備し、敵基地攻撃能力を保有するミサイルの保管が準備されていることについて安藤県議は、「火薬庫の存在は、他国から報復の対象となりかねない」と県の対応を迫りました。

▶坂本敏昭・危機管理局長  
わが国の安全保障に必要な整備であり、整備にあたっては地域の理解を得ながら適切に対応していただきたい。

原発・  
核燃

危険な老朽原発の運転延長、核燃サイクルは破綻  
“原発ゼロの決断迫るべき”（安藤県議）

宮下知事「原発は必要」「核燃サイクルは協力」

原発・核燃からの撤退を迫る安藤県議に対し、知事の答弁は三村県政当時と変わらないものでした。

高レベル放射性廃棄物

最終処分地にしない条例制定を

「条例制定いかにかわらず、最終処分地にしない方針は明確」（宮下知事）

中深度処分相当の  
低レベル放射性廃棄物

受け入れない立場を明確に

「申し上げることはない」（荒関浩巳エネルギー総合対策局長）

被災  
園地

昨夏の大雨で被災したりんご園  
生産者の希望に即した県の支援を

「今後どうなるのか不安」「伐根に必要な重機の支援を」「園地を移したいが場所が見つからない」…現地で聞いた声を紹介し、県の支援を求めました。

▶赤平次郎・農林水産部長  
国の果樹産地再生支援対策活用で園地に流入したごみ等処理経費支援、新たな園地へのマッチングで4名が確保など、営農再開に繋げてきた。

【質問通告】 知事の政治姿勢について（憲法観、海上自衛隊大湊地区における大型弾薬等を保管する火薬庫の整備、原子力・核燃料サイクル政策）／短命県返上に向けての取組について／子育て支援策の拡充について（子どもの医療費無料化、学校給食の無償

化、子どもに係る国保料・税の均等割の全額免除）／高齢者の暮らしを支える取組について（加齢性難聴者の補聴器購入費助成、介護保険料の軽減）／5類移行後の新型コロナウイルス感染症対策について／雇用の拡大及び地域活性化について（賃金水準の向上

に向けた中小企業者支援、持続可能な農業の実現、公立学校における教員不足、ケア労働者の確保）／青森県立高等学校教育改革推進計画について／昨年8月の大雨により被災したりんご園の生産者に対する支援について

意見書案の提案理由説明 (田端県議) **20日** 常任委員会 (3県議が所属委員会で質問) **24日** 閉会。一部反対討論 (よしまた県議)

**子ども医療費**

**高校卒業までの無料化を**

安藤県議は、都道府県の実施状況を質問(下図)。県内では、入院・通院ともに高校卒業まで25市町村、中学卒業まで13市町村が無料となっている状況をふまえ、現在、就学前までとなっている県の助成対象を一気にひろげることを訴えました。



**子ども医療費無料化 都道府県の実施状況 2023年4月1日現在**

入院の無料化	通院の無料化
高校卒業まで <b>6</b> 都県	高校卒業まで <b>5</b> 都県
中学卒業まで <b>17</b> 県	中学卒業まで <b>10</b> 府県
小学卒業まで <b>7</b> 道県	小学卒業まで <b>9</b> 県 (小3までを含む)
就学前まで <b>17</b> 府県 (本県含む)	就学前まで <b>23</b> 道府県 (本県含む)
自己負担を設けているところ <b>36</b> 都道府県	

**教員不足**

**ただちに抜本的な対策を**

年度はじめから担任の先生がいらないなど、教員不足が深刻です。安藤県議は、県内の実情を問うとともに、教員の長時間労働の解消など抜本的な手立てを求めました。

**▶風張知子・県教育長**

1学期始業式時点での臨時講師等の未配置は、小学校で73人、中学校で38人。ハローワークを通しての募集や退職教員等に対して働きかける。

**喫煙対策**

**がん死亡率…男女とも1位 深刻な実態に即した手立てを**

喫煙者だけではなく受動喫煙対策の強化も必要だ、と迫りました。

**議案に対する 質疑**  
よしまた県議

よしまた県議は質疑で10項目の質問を行いました。そのうち、知事の提案理由説明から質問した2つのテーマについて紹介します。

**教育委員会の政治的中立性は民主主義の根本問題**

**教育長任命**

**教育に関する知事参与設置**

**知事の基本的立場を質問**



- 7月6日の質疑の動画がご覧いただけます。
- 7月19日の質疑の動画がご覧いただけます。
- 一部反対討論の動画がご覧いただけます。

個人の精神的内面を形成する教育には、政治的中立性が強く要請されます。よしまた県議は、教育長の任命や教育に関する知事参与の設置にかかわって、この基本点を質問。知事は、政治的中立性の重要性について繰り返し答弁しました。

**●子どもが産める環境づくりこそ出生率向上のカナメ**

「出生率2以上をめざす」とする知事に対し、「産みたいタイミングで産める環境づくりこそ一番の仕事」と質問。永田翔健康福祉部長は、「リプロダクティブライツ(性と生殖に関する権利)が重要だ」と認識をしめしました。

**2023年7月議会**

**議案への賛否一覽** (一部抜粋)

議案	賛	否	共産	自民	新政	オール	公明	参政	無(鹿)	無(吉)
議案 10号 副知事の選任	同意		<b>賛成</b> 宮下知事が就任直後で評価を持ってない。人物評価は問題なし	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>
議案 11号 教育長の選任	同意		<b>賛成</b> 「政治的中立性は重要」との知事の言明を受け賛成	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>
議案 7号 みちのく有料道路のETC割引	可決		<b>反対</b> 割引サービスは前向きだが有料であること自体が問題。無料化を	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>反対</b>	<b>賛成</b>
議案 13号 病院事業会計の決算の認定	認定		<b>反対</b> 県病と市民病院の統合に向けて抽速に進めるやり方に反対	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>賛成</b>	<b>反対</b>	<b>賛成</b>

※会派名は次の通りです。共産=日本共産党、自民=自由民主党、新政=新政未来、オール=オール青森、公明=公明党、参政=参政党、無(鹿)=鹿内博議員、無(吉)=吉田ゆかり議員

意見書への  
提案理由説明

田端県議

7月議会には、意見書案が5本提出されました。

このうち、日本共産党は、「健康保険証の存続」と「最低賃金の引き上げ」を求める意見書を、新政未来、鹿内県議(無所属)とともに提案し、田端県議がその提案理由説明を行いました。いずれも賛成少数で否決されました。

所得向上の抜本的手立て

最低賃金を時給1,500円以上に

「中小企業支援策の拡充による最低賃金の改善を求める意見書」の提案理由説明で田端県議は、厚労省が「結婚の壁」として示す年収300万円を達成するためにも、時給1500円以上が必要だと訴え。全国一律の制度として拡充するように求めました。



▲提案理由説明の動画が  
ご覧いただけます。

中小企業への支援を強化し  
最低賃金の引き上げを求める  
意見書が否決 7月議会

- 賛成 日本共産党、新政未来、無所属(鹿内議員)
- 反対 自民党、オール青森、公明党、参政党、無所属(吉田議員)

健康保険証 廃止の理由なし

【1面の続き】「現行の健康保険証の存続を求める意見書」について田端県議は、「現行の健康保険証は問題なく機能している」と指摘し、保険証廃止の撤回を強く求めました。

第96回臨時会(5月10日~12日)

主な日程と日本共産党県議の質問

10日 開会、議長・副議長選挙

12日 質疑(よしまた県議)、閉会

改選後最初の本会議が臨時議会として開催され、議長選挙などが行われました。  
この議会ではまた、三村申吾知事が補正予算案など議

案3件、報告9件を提案しました。議案すべてが可決・同意・承認。日本共産党は議決に付された6件のうち2件に賛成、4件に反対しました。

議案に対する  
質疑  
よしまた県議

深刻な物価高騰 県民生活を守るためのあらゆる施策を

よしまた県議は物価高騰対策として組まれた補正予算など7項目の質問をしました。

電動キックボードの規制緩和

歩行者の安全を守る手立ての強化を

道路交通法が改定され、電動キックボードの安全規制が緩和されます。よしまた県議は、歩行者の安全を守る手立ての強化を求めました。



監査委員の選任の質疑をご覧ください。



左記以外の5月12日の質疑をご覧ください。

議長選挙

新議長…丸井裕議員  
副議長…寺田達也議員  
(いずれも自民党)

日本共産党県議団は  
議長は田名部議員(新政未来)、副議長は安藤議員(共産党)に投票

議長選・副議長選で日本共産党は、自民党中心の県政からの転換を願う立場から、議長選挙では新

政未来の田名部定男議員に投票する対応を行いました。

2023年5月臨時議会

議案への賛否一覽 (一部抜粋)

議案	議案内容	結果	共産	自民	新政	公明	青和	参政	無
議案1号	補正予算案	可決	賛成 物価高騰対策としてLPガス利用料軽減などにとりくむ。前向きと評価して賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
議案3号	議員選出の監査委員の選任	同意	反対 第一会派からの選出される選任が続いている。会派が偏っていることに反対	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成
議案2号	キックボードの規制緩和にともなう措置	可決	反対 電動キックボードの安全規制を緩和することで、交通の危険が懸念される	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成	賛成

※会派名は次の通りです。共産=日本共産党、自民=自由民主党、新政=新政未来、公明=公明党、青和=青和会、参政=参政党、無=この議会では5人。全員同じ態度なのでまとめて表記する